

令和6年度

学校法人昭和大学 決算の概要

令和6年度 学校法人昭和大学の決算は、令和7年5月23日の臨時理事会で承認され、同日の評議員会にて報告しました。令和6年度は新型コロナウイルス感染症が5類へ移行してから1年が経過し、コロナ前の状態に戻りつつある中で、医療収入は前年度を上回る推移を辿っていますが、物価高騰の影響により薬品費、医療材料費等の支出が増加傾向にあり、「増収減益」となっています。

設備投資としては、教育環境を整備すべく、鷺沼キャンパス新校舎の建設が着工し、富士吉田キャンパス新実習棟の建設工事も予定どおり進行しています。附属病院の診療環境の整備においては、昭和大学病院で放射線治療システム、北部病院でMRI装置の機器更新を行いました。外部資金の獲得では、私立大学等経常費補助金の交付額が全国4位となりました。

一. 資金収支について

資金収支は、法人の諸活動に対応する資金の動きを伴う収入支出の内容を示しています。当年度の資金収入は、1,566億6,819万円（前年度繰越支払資金を除く）、資金支出は、1,590億9,124万円（翌年度繰越支払資金を除く）で、支払資金は、24億2,305万円の減少となりました。

収入の部の主要科目については、予算と比べて、学生生徒等納付金収入は、1億3,970万円の減額、手数料収入は、615万円の減額、寄付金収入は、1億7,623万円の増額、補助金収入は、4,422万円の減額、資産売却収入は、33億525万円の増額、付随事業・収益事業収入は、3億6,919万円の増額、医療収入は、15億2,979万円の増額、雑

収入は、3億7,438万円の増額、その他の収入は、特定資産取崩収入等により、38億113万円の増額でした。

支出の部の主要科目については、予算と比べて、人件費支出は、4億6,621万円の増額で執行率は100.9%、教育研究経費支出は、28億9,514万円の増額で執行率は104.6%となりました。この教育研究経費支出の中で大きな比重を占める、薬品費・医療材料費・給食材料費・医療委託費の支出からなる「直接医療経費」は、医療収入の38.4%となりました。管理経費支出は、14億4,489万円の減額で執行率は76.2%でした。また、土地、建物等の施設関係支出は、9億6,772万円の減額で執行率は91.5%、教育研究用機器備品、図書などの設備関係支出は、7億571万円の減額で執行率は88.4%、資産運用支出は、有価証券購入支出等により、35億5,667万円の増額でした。これら以外の科目では借入金等返済支出、その他の支出等があります。

二. 事業活動収支について

事業活動収支は、企業会計の損益計算に近いもので、収支均衡状態を測定し経営状況を明らかにするものです。諸活動の収入を合算した事業活動収入は、1,392億6,644万円となり、予算と比べて、25億2,790万円の増額となりました。科目ごとの金額は、資金収支と重複しますので、主要科目の構成割合を以下に示します。学生生徒等納付金7.1%、経常費等補助金4.9%、医療収入83.3%でした。一方、事業活動支出は、1,357億5,328万円となり、予算と比べて、18億7,956万円の増額となりました。構成割合は、人件費41.0%、教育研究経費54.7%、管理経費4.1%となりました。なお、資金の

動きを伴わない退職給与引当金繰入額 20 億 4,764 万円は人件費に、減価償却額 79 億 4,070 万円は教育研究経費と管理経費に含まれています。教育活動収支と教育活動外収支からなる経常収支差額は、31 億 3,848 万円の収入超過となりました。基本金組入前当年度収支差額は、35 億 1,316 万円の収入超過で黒字となり、事業活動収支差額比率は、2.52%でした。基本金組入額 147 億 8,195 万円を引いた当年度収支差額は、112 億 6,878 万円の支出超過となりました。

三. 貸借対照表について

令和 7 年 3 月 31 日現在の財産状況を示しています。固定資産(土地・建物・機器備品・特定資産他)と流動資産(現金預金・未収入金他)の資産の部合計は、2,621 億 2,898 万円で、前年度末と比べて 53 億 8,950 万円の増加となりました。主な変動要因として、固定資産の特定資産は、将来構想を実現するための積立金であり、令和 6 年度予算計上額の繰り入れ及び一部の特定資産を取り崩した結果、35 億 800 万円の減少となりました。学内預金制度の資金は、学内預金引当特定資産として支払資金とは区分して保全管理しています。流動資産の現金預金は、24 億 2,305 万円の減少となりました。

一方、固定負債(長期借入金・退職給与引当金他)と流動負債(短期借入金・未払金他)の負債の部合計は、472 億 7,650 万円で、未払金等で前年度末と比べて、18 億 7,633 万円の増加となりました。

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた「正味財産」は、2,148 億 5,248 万円で、前年度末と比べて、35 億 1,316 万円の増加となりました。